

2009 年は世界天文年

今年、2009 年は世界天文年です。この世界天文年に合わせて、日本でもたくさんの方の行事も予定されています。



ガリレオ・ガリレイ

さて、世界天文年は、今からちょうど 400 年前 1609 年、日本で江戸時代が始まって間もないころ、イタリアではガリレオ・ガリレイが自作した望遠鏡を、初めて天体に向けたことにちなんでいます。

その望遠鏡はレンズの大きさがわずか 3cm 程度で、倍率は 3 倍ほどでした。しかも、小さな穴をのぞくような、見える範囲のたいへんせまいものでした。その後、ガリレオは性能を良くした望遠鏡を作った。木星の衛星や金星の満ち欠け、太陽の黒点

などの多くの発見をしました。

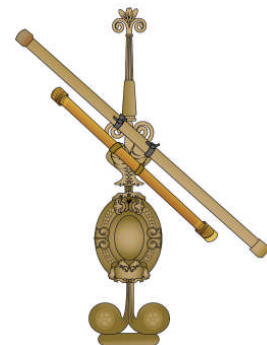
それまでは、肉眼でしか観察できなかった星空を、望遠鏡を使うことによって、大きく拡大して見ることができるようになり、また、肉眼では暗くて見えなかった天体も観察できるようになりました。

やがて、望遠鏡に使うレンズがより大きく、レンズの材料や、組み合わせなどが改良されより大きな望遠鏡が作られました。また、凹面鏡を使用することによって、いろ

いろなタイプの望遠鏡が作られて、暗い天体をより鮮明に観測できるようになりました。その後、18 世紀に天王星、19 世紀には海王星が発見され、さらに 20 世紀に入って地球は銀河系という大きな天体の集団の一員であること、銀河系の外には、別の銀河系がたくさんあることなど、宇宙の知識がどんどん広がっていきました。ガリレオが望遠鏡を使用して天体の観測した 1609 年は、その後の天文学の発展の大きな転機になったのです。

また、2009 年の 7 月 22 日には、46 年ぶりに日本国内で皆既日食を見ることができますし、富山市科学博物館でも 4 月下旬には最新のデジタル・プラネタリウムがオープンしますので、これを機会に星や宇宙に目を向けてみませんか。

(2008 年 12 月 布村克志)



ガリレオの望遠鏡